

平成 29 年度 AO 入試

「課題論文（地域学部地域学科国際地域文化コース）」出題の意図

今年度は、鷺田清一著『哲学の使い方』（岩波書店、2014）の中から、鷺田氏が「ぐずぐずする権利」について述べている箇所を、課題論文の資料として用意した。本資料の中で、鷺田氏は、答えを出すのが難しい問題に対してすぐに解答を求めたり、わかりやすい論理に飛びついたりする近代人の「気の短さ」を批判しつつ、重要な問題に対して「ぐずぐず」と思い悩む時間及びそのプロセスをわれわれが持つべき「権利」として捉え、知的持久力をつけることの重要性を主張している。

問一では、鷺田氏の言う「ぐずぐずする権利」の要点を適切に捉え簡潔に説明できるかを問うた。問二では、「ぐずぐずする権利」に対する自身の考えを、資料を参考にしながら、具体的に論じることができるかを問うた。

評価の観点には、①資料の要点を読み解く力、②内容の論理的な一貫性や説得力、③文章表現の技法等である。